

いしかわ

まちづくりView

No.29

目次

- 街並み・まちづくりシンポジウム—市町村合併とまちづくり— 1・2・3
- あのみち、このまち“まちづくりめぐり”
— 白山ろくテーマパーク—
吉野オートキャンプ場パーベキュー施設完成……………4
— 白山市白峰地区の挑戦—
特色ある地域資源(温泉、伝統的街並み、雪だるま)を活用した持続可能なまちづくり…5
- まちづくりの動き
石川県耐震改修促進計画の策定について……………6
「かほく市都市計画マスタープラン」策定……………7
- センターだより……………8

財団法人いしかわまちづくりセンター

特集

街並み・まちづくりシンポジウム —市町村合併とまちづくり—

街並み・まちづくりシンポジウムは、先進地の事例等を紹介しながら、まちづくり活動への住民参加を広く県民に普及させることを目的としたシンポジウムで、平成10年度より県内各地で開催してきました。

平成18年度のテーマは「市町村合併とまちづくり」です。近年市町村合併により誕生した「かほく市」と「(新)加賀市」において、新たなまちづくりへの期待や、新市に寄せる思いなどを語っていただきました。

街並み・まちづくりシンポジウム 概要

【かほく市】

「合併後のまちづくりを考えるシンポジウム」

- 日時：平成19年3月21日（水・祝日）
13:00～16:15
- 場所：石川県西田幾多郎記念哲学館大ホール
- テーマ：かほく市のまちづくりと情報発信
- 第1部：パネルディスカッション
「残しておきたいかほく市の景色と情景」
- 第2部：パネルディスカッション
「地域メディアがまちづくりに果たす役割」

【加賀市】

「自転車フェスタかが2007—自転車を活かしたまちづくり—」

- 日時：平成19年3月25日（日）13:00～16:00
- 場所：〈シンポジウム〉加賀市蘇梁館
〈屋外イベント〉山の下交通広場、大同工業体育館
- テーマ：自転車に乗ってまちを再発見しよう
〈シンポジウム〉
- 第1部：基調講演
「自転車で楽しむ加賀のまち」
講師 東京都サイクリングツアープロジェクト 多賀 一雄氏
- 第2部：パネルディスカッション
「自転車から見たまちの景色」
〈屋外イベント〉自転車教室、試乗会、点検講習会 他

1. かほく市「合併後のまちづくりを考えるシンポジウム」

第1部では、子や孫達に伝えていきたい伝統等に触れながら、地域の特徴を活かしたまちづくりについて議論していただきました。

第2部では、地域経済、安全対策などにメディアが果たす役割について議論していただきました。

①第1部パネルディスカッション

「残しておきたいかほく市の景色と情景」



(渡辺氏 石川地域づくり協会アドバイザー)

まちづくりの3つの要素「情景、景色」「人物、偉人」「環境、自然」の中から選出し、それらを総合的にストーリーのある情報にまとめて、発信するのが有効だと思います。まちづくりをするときは躊躇せず「やるまいかい精神」で元気に取り組むことが大切です。

(岩佐氏 かほく市町会区長会連合会会長)

交流人口を増やすうえでは、他地域の学校との対外試合や交流会が非常に有効だと思います。

(小山氏 かほく市商工会会長)

かほく市の風景の多くを残したいです。一方、全国の桜の名所を参考に、市の木である桜をたくさん植える等の新しいことに取り組むことも必要だと思います。

(坂野氏 元気だすまいかいNUT会長)

地引網等の取り組みを行っていますが、参加者にとっても喜ばれます。交流人口の拡大を図るうえで体験と食を結びつけた取り組みは有効だと思います。

(高崎氏 かほく市瀬戸町農産物加工生産組合長)

かぶらずし等昔ながらの自家製保存食を後世に残したいと思います。また、かぶらづくり体験や味噌作り体験などの農業体験を通して、かほく市に来てもらい知ってもらい喜んでもらうことが大切だと思います。

(西尾氏 かほく市ボランティア観光ガイド会長)

西田幾多郎記念館や賀茂神社を残していきたいと思っています。住民は新市の中で自分の地域以外の観光スポットについても勉強したり、それを多くの人に話すことが観光振興につながると思います。

②第2部パネルディスカッション

「地域メディアがまちづくりに果たす役割」

(渡辺氏 石川地域づくり協会アドバイザー)

30分ほどで旧3町間を移動できる場所を上手く利用し、文化戦略を入れながら、メディアを運用していただければと思います。

(北川氏 かほく市総務部企画情報課)

お祭りや伝統芸能など昔から地域にあるものを大切にし、たくさんの人に参加してもらえるようなメディアになりたいと思います。

(坂室氏 かほく市商工会IT推進委員会副委員長)

企業の紹介や地場の商品のPRなどの情報を流す商工チャンネルなどがあったら面白いと思います。

(新江氏 FMかほく設立代表人)

地域の交流を生む住民参加をテーマにするようなメディアになりたいと思います。また、テレビとの連携や、災害対策としての活用によりラジオを地域づくりに役立たせていきたいと思っています。

(竹田氏 フリーアナウンサー)

地域メディアには、まちの広報誌のようにアクセスすれば町の人や動き等も分かるような身近な存在になってほしいと思います。

(室石氏 かほく市商工会女性部副部長)

ありのままのかほく市の生活や暮らしぶりなども番組にいれ、発信していただきたいと思います。



—市町村合併とまちづくり—

2. 加賀市「自転車フェスタかが2007 —自転車を活かしたまちづくり—」

第1部では、(有)京都サイクリングツアープロジェクト代表取締役の多賀一雄氏に自転車による観光振興について語っていただきました。

第2部では、加賀市における自転車で楽しむ観光について議論していただきました。

①第1部 基調講演「自転車で楽しむ加賀のまち」

自転車で界隈を巡ることで地元文化を再発見できます。



加賀市では、柴山湯周辺や温泉街を巡るツアーや、九谷焼の博物館やお寺を巡る歴史伝統ツアーなどが考えられます。街中を巡り、立ち寄ったお店で買い物や食事をとることで街の

経済活性化にもつながります。街が活気づき、同時に健全な心と体も養えるという自転車はメリットの多いツールです。

②第2部 パネルディスカッション

「自転車から見たまちの景色

—自転車散策のポイント、楽しみ方—

(大中氏 NPO法人ラスコ片山津副理事長)

片山津では旅館や自転車店によってレンタルサイクルの取り組みが行われています。以前より自転車でまちを周る観光客が増えたように感じています。

(須谷氏 山中温泉女将の会ばたん会)

山中町では26件の旅館が計101台の自転車を購入し観光客に利用いただいています。温泉街から県民の森、今立に向かう道路は花が綺麗で絶好のコースです。

(長谷川氏 石川県立大聖寺高校生徒)

自転車に乗れば町の中で新しい発見ができたり運動不足解消にもつながるので多くの方に自転車に乗っていただきたいと思います。

(岡田氏 加賀市観光情報センター所長)

山代の九谷焼窯跡展示館から大聖寺の九谷焼の美術館まで向かう九谷の聖地を巡るコースがサイクリング

コースとしてお勧めです。

(多賀氏 (有)京都サイクリングツアープロジェクト代表取締役)

加賀市には自転車標識等の社会基盤をはじめ、山中の橋や、疲れた足を癒す足湯、きれいな景色など、楽しめるスポットが多く、自転車にとって最高の環境が整っています。今後も自転車によるまちづくりをすすめていただければと思います。



③屋外イベント

屋外イベントでは、自転車教室、自転車点検講習会、自転車試乗会、バイクトライアル・デモンストレーション、優良受講者表彰式が行われました。



吉野オートキャンプ場 バーベキュー施設完成！

■白山ろくテーマパーク計画の目的

豊かな自然資源と歴史・文化資源に恵まれ、白山の眺望や手取、大日川の清流、ふるさとの田園風景という環境のなか、金沢、小松都市圏と白山の自然をつなぐ地域一帯の基盤施設として、広域型の都市公園を整備しています。都市公園計画決定面積はA = 128.2ha 事業認可区域はA = 33.7haです。

■白山ろくテーマパークのテーマ

各整備地区にはテーマがあり、旧河内村吉岡地区は「花」（花咲く田園の里）、旧吉野谷村吉野地区は「人」（人々が、集う伝統文化の里）、旧鳥越村河合・下野地区及び上野・釜清水地区は「雪」（うつりゆく四季を楽しむやすらぎの里）として、地域資源の保全と活用を図ります。

吉岡地区は平成16年11月に花咲く田園の里として全面供用されました。また吉野地区は平成18年7月に人々が集う伝統文化の里、白山吉野オートキャンプ場（一部供用開始）としてオープンしました。

■バーベキュー施設の概要

本年7月21日（土）にバーベキュー施設がオープンしました。



1連タイプバーベキュー舎

バーベキュー施設は全棟屋根付きで、雨天時の利用も可能で、夕方からの利用も出来るように街灯も整備し、バーベキュー舎内には照明施設も完備しました。

バーベキュー施設は、なるべく急な勾配を避け車いす利用者の移動もスムーズに出来るようにしました。大人8人がゆったりと腰掛けられるようにしました。また、車いす利用者の方々にも、身近に炉でバーベキューを楽しみただけのようにベンチは取



車いす利用イメージ図

車いす対応型洗い場
調理台



り外しが出来る可動式タイプを設置しました。

炊事舎において、洗い場7箇所のうち2箇所は車いす対応型とし、車いすが旋回できる広い空間を確保しました。

また、オートキャンプ場管理棟にはシャワー室、身障者用シャワー室、コインランドリーを完備しております。



オートキャンプ場利用状況

■吉野オートキャンプ場、バーベキュー施設利用期間及び時間等について

□オートキャンプ場

利用期間：4月28日～10月31日

利用時間：日帰り午前10時～午後5時

宿泊：正午～翌日午前10時

利用料金：日帰り 1サイト1台2,500円

宿泊 1サイト1台5,000円

□バーベキュー施設

利用期間：今年は7月21日（土）～11月30日（金）

来年は4月1日～11月30日

利用時間：午前10時～午後8時

利用料金：野外炉1基1回につき2,000円

□詳しいお問い合わせ先は

白山市吉野支所産業建設課

TEL：0761-95-5011

まほろばの郷 白山吉野オートキャンプ場

TEL：0761-95-5353

（石川土木総合事務所建設課）

— 白山市白峰地区の挑戦 —

特色ある地域資源(温泉、伝統的街並み、雪だるま)を活用した持続可能なまちづくり

1 まちづくり交付金事業

(白峰地区中心市街地再整備事業)



▼山岸家周辺



▲ミンジャ(せせらぎ)

白峰地区は江戸時代に天領（幕府直轄地）であり、当時の庄屋である山岸家をはじめ情緒ある街並みが保全されている地域であります。また、近年になり伝統的な建築様式を基本とした「白峰型住宅」と呼ばれる住宅が急速に普及したことによって、全体の調和が図られるとともに、観光資源としての役割も期待されているところであります。さらに、良質の温泉は「つつる湯」として広く知られており、本地域の観光の目玉として位置付けられています。

このたび、将来にわたり持続可能なまちづくりを進め、新たな誘客による地域の活性化を図るため、平成19年度から21年度にかけ、まちづくり交付金の採択を受けて、温泉総湯、地域交流センター、特産品販売施設、まちなか公園（高山植物園）、道路、せせらぎ、ポケットパーク、駐車場などの整備を一体的に行うことになりました。

今後、白峰地区にさらなるにぎわいをもたらすため、山村・過疎地域、特別豪雪地域の先駆的なまちづくり例として、官民協働でソフト事業を積極的に行うこととしています。



白峰温泉総湯・地域交流センター完成予想図

2 雪だるままつり

雪だるままつりは平成2年に始まり、本年度で18回目となりました。素朴な地域住民参加型を基本とし、雪を活用したユニークなイベントとして大きな反響を得て、これまで「サントリー地域文化賞」や「ふるさとイベント大賞」などを受賞するなど、今では石川県を代表する冬のイベントに定着しています。期間中は1万人を超える来訪者を数え、地域おこしのモデルとして注目を浴びています。



愛らしい表情を見せる雪だるま

3 雪だるまカフェ

雪だるままつりに続く第二の地域おこしを模索していた雪だるま倶楽部ですが、取り壊しの危機にあった明治時代初期建築と推定される古民家を購入し、雪だるまカフェとして本年4月に再生しました。このカフェは飲食機能だけではなく、文化財指定に向けた建築物の保存活用、学生の活動拠点、体験プログラムの企画なども計画されており、まちづくり交付金事業との連携によるにぎわい拠点として期待されています。



古民家が見事に雪だるまカフェとして再生

(白山市地域振興課)

まちづくりの動き

石川県耐震改修促進計画の策定について

■はじめに

平成19年3月25日、最大震度6強の能登半島地震が発生し、約650棟の住宅が全壊し、2,600人を超える方々が避難所生活を余儀なくされました。

阪神・淡路大震災では、地震による死者数のうち9割が建築物の倒壊により命を奪われました。さらには、倒壊した建築物等が避難・救援・消火の妨げとなり、被害の拡大をまねきました。

■耐震化の必要性

地震の発生を阻止することはとても難しいことですが、地震の発生による被害を軽減することは可能です。住宅など建築物の倒壊により被害が大きくなることわかっています。建築物を倒壊しないようにすること、つまり「建築物の耐震化」が多くの生命や財産を守るために有効かつ効果的な方法なのです。

■石川県耐震改修促進計画の概要

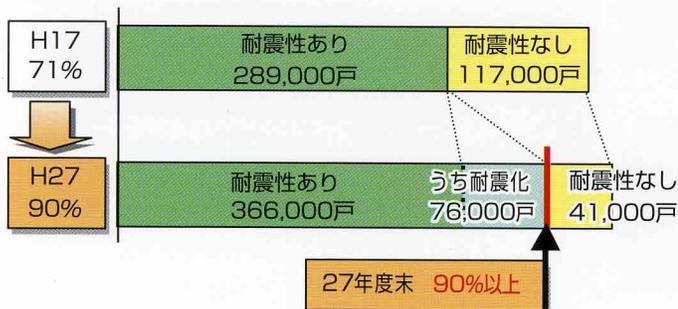
県では、「地震に強い住まいとまちづくり」に向けて「耐震改修促進計画」を定めました。

・耐震化の目標

県内の耐震化の現状は、平成17年度末で、住宅は71%、学校や病院など多くの人が利用する建築物（特定建築物）で77%です。今回の計画において、平成27年度末までに、住宅、特定建築物のどちらについても耐震化率を90%以上とする目標を掲げています。

・住宅の耐震化

平成17年度末での住宅総数は、約406,000戸です。このうち、耐震性のある住宅戸数は、約289,000戸と推計しており、平成27年度末までに約76,000戸の耐震化を目指します。



・特定建築物の耐震化

県内の特定建築物の総数は約5,600棟あります。このうち、耐震性のあるものは約4,300棟と推計しており、平成27年度末までに約730棟の耐震化を目指します。なかでも、避難施設や防災拠点となる施設(学校、病院等)、災害時要援護者が利用する施設(社会福祉施設等)については、早期に目標の90%に達するよう耐震化を促進します。

・耐震化促進に向けた取り組み

住宅・建築物の所有者は、自らの生命や財産を守る意識を持ち、身近にできる対策から始め、主体的に地震に備えることが最も重要です。

県・市町は、情報提供や耐震化しやすい環境を整備することで所有者を支援します。

● 情報提供や相談窓口の設置

● 技術者の育成

● 耐震診断、耐震改修にかかる助成

→耐震診断費補助は県下全域、耐震改修費補助は県下5市町(金沢市、小松市、羽咋市、白山市、能美市)で補助事業を実施しております。(平成19年7月現在)

■あなたのお宅はどうですか？

まずは簡易診断を行い、耐震性をチェックしてみましょう。「誰でもできるわが家の耐震診断」という簡易診断方法があり、ホームページ

<http://www.kenchiku-bousai.or.jp/wagayare/wagayare.pdf> や市町の住宅部局で入手することができます。

この機会に「地震に強い住まいづくり」について考えてみてください。

(建築住宅課まちづくりグループ)

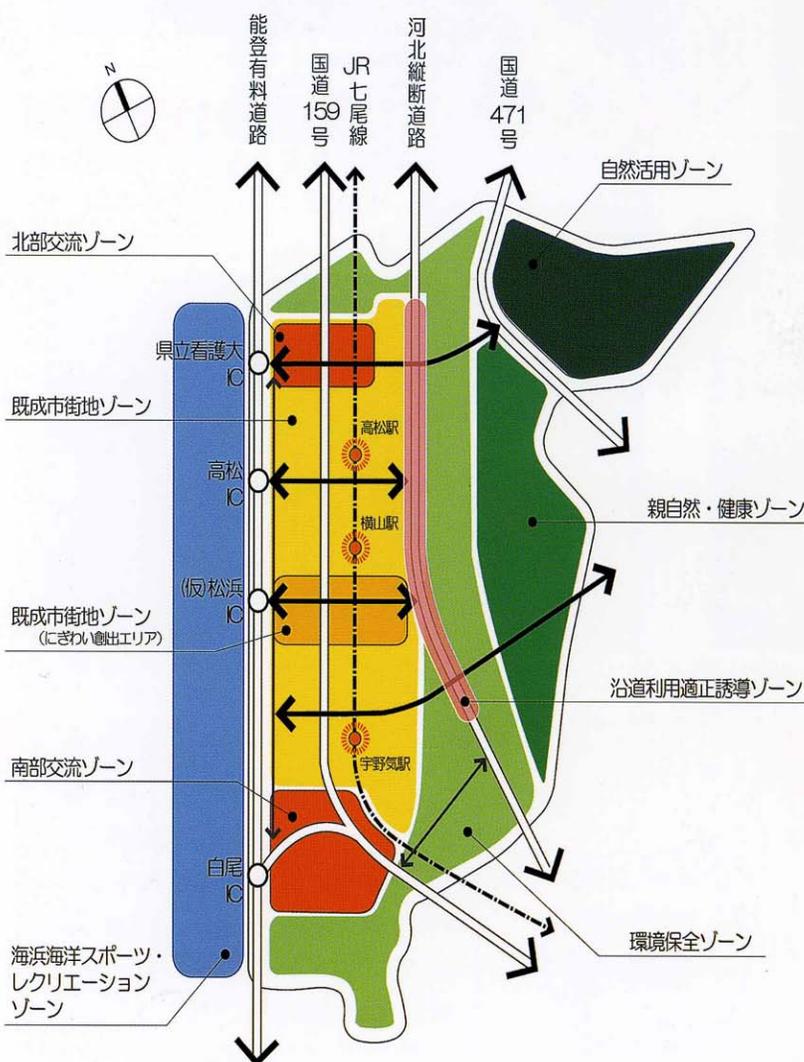
「かほく市都市計画マスタープラン」策定 ～合併第1号の計画づくり～

■かほく市では、平成16年3月の合併後、平成17年度に「かほく市総合計画」を策定し、本年3月には「かほく市都市計画マスタープラン」を策定致しました。

■かほく市都市計画マスタープランは、市の土地利用方針や都市整備方針等を定めた「全体構想」と、市域を9箇所に区分し、地域毎のまちづくりの方針を定めた「地域別構想」で構成しています。

全体構想(将来都市構造)

将来都市構造では、目指すべき都市像や、都市計画の目標の実現に向け、本市の自然・地形などの特性を基本として、都市構造の骨格を形成する「ゾーン」と、広域的な連携・交流を形成・強化する交通ネットワークによる「軸」を位置付け、それぞれ目指すべき都市づくりの方針を整理しています。



●都市計画の目標

豊かな人・自然・文化が織りなす
“活力・魅力・やすらぎ”のあふれるまち かほく

●都市づくりの基本方向

- 1 健やかに、安心して暮らせる、協働によるまちづくり
- 2 豊かな地域資源を活かした個性と魅力あるまちづくり
- 3 連携と交流による一体的なまちづくり

●マスタープラン 策定の経緯

策定期間 平成17年度～平成18年度
策定体制 委員会 4回開催
(委員長 坂本英之金沢美術工芸大学教授)
幹事会 5回開催
都市計画審議会報告(中間・最終)
市民参画 まちづくりアンケート調査実施
パブリックコメント募集
(H18.7.1～7.20まで20日間)
市広報誌掲載(中間・最終)
地元説明会(3会場)

●マスタープランをうけての取組み

都市計画マスタープランを基に、個別具体の計画を検討し、計画の実現を図ります。

【今後検討する個別計画等】

- ①土地利用関連…都市計画区域の再編
用途地域指定の検討
- ②道路関連…長期未着手都市計画道路の見直しを含む幹線道路網計画の策定
- ③住宅関連…住宅マスタープランの策定
耐震改修促進計画の策定
- ④公園関連…緑の基本計画の策定
- ⑤景観関連…景観形成基本計画の策定

●策定にあたって配慮したこと

- ・1つの都市としてのメリハリと旧3町間のバランスとの両立にせまられ、その調整に苦勞しました。
- ・財政難という状況にあり計画の実現性を考慮し、机上の空論とならないよう配慮しました。

かほく市都市計画マスタープランの詳しい内容は、かほく市ホームページでもご覧になれます。

<http://www.city.kahoku.ishikawa.jp>

(かほく市都市建設課)

センターだより

～平成19年度事業予定～

今年度も当センターでは、まちづくりに関する様々な事業を展開する予定です。ここでは、今年度予定している事業についてご案内します。

まちづくり情報の提供

・ライブラリーの充実

まちづくりや都市計画に関する専門図書の充実を図り、貸出を行っております。

・広報誌の発行

県内のまちづくりに関する最近の話題を提供するために、今年も「いしかわまちづくりView」を発行します。

まちづくりの啓発・普及活動

・まちづくり専門家の派遣

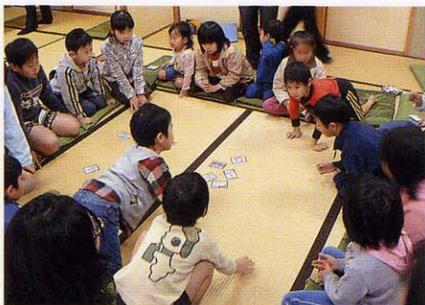
県内の市町村や自治会、住民団体等が実施するまちづくり講習会などの要請にお応えして、まちづくりの専門家をセンターの費用負担で現地に派遣し、指導助言を行います。



加賀市動橋地区での勉強会

・住民主体のまちづくり事業

当センターでは、まちの未来の担い手である子供たちが、まち・まちづくりを学ぶための活動（まちづくり学習）を支援しています。



長町かるた制金沢作（金沢市長町）

今年度もまちづくり学習に対し、活動費を助成します。

・街並み・まちづくりシンポジウム事業

当センターでは、まちづくりの普及・啓発を目的に、まちづくりに関するシンポジウムを開催しています。今年度2箇所の開催を予定しています。

まちづくり交流会の開催

今年度も昨年度同様いしかわまちづくり交流会を2回開催する予定です。今年度のパネルディスカッションのテーマは「“ヒト”～育成と活用～」と「“持続可能なまちづくり”～事業後の在り方～」を予定しています。



いしかわまちづくり交流会

まちづくり検討業務の受託

県や市等から公共事業に係るまちづくり協議会の運営業務等を受託し、まちづくりに関する構想・計画の立案を行っております。



前川まちなみ検討会（小松市今江町）

編／集／後／記

今年度は当センター設立10周年です。これまで以上に頑張っていきますので、ご愛顧のほどよろしくお願いいたします



編集協力：石川県都市計画課
発行：財いしかわまちづくりセンター
TEL 076-225-1905 FAX 076-225-1943
HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm
発行日：平成19年7月